



旧藏内邸

特別展

小野茂明 日本画展

日本の原風景を歩く

明治三十年（一九九七）嘉穂郡穎田町（現飯塚市）に生まれ、絵を志して上京し、九十六歳で没した小野茂明。晩年は帰郷し太宰府にアトリ工を構えたが、若い頃から縁のあった築上町の城井谷に幾度も逗留し、創作のかたわら地域の人々との交流を深めた。

2025.12.4（木）～2026.2.24（火）

会場 / 国指定名勝 旧藏内邸

福岡県築上郡築上町上深野396

時間 / 9:30～16:30 *水曜休館（2026年2月11日は開館）

入場料 / 大人 310円 小中学生 100円

主催 / 築上町教育委員会 問合せ / 旧藏内邸 0930-52-2530

作品名：心礎（制作年不詳 紙本着色）

この印刷物は築城飛行場関連再編関連特別事業で制作しました。



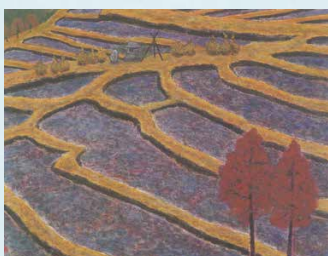
秋草(六曲一双)昭和51年 (展示期間: 令和8年1/22~2/24)



松林(六曲一双)昭和51年
(展示期間: 令和7年12/4~令和8年1/20)



双鶴(掛軸装)制作年不詳



刈田(紙本着色)制作年不詳



日の出(掛軸装)



池のほとり(紙本着色)
昭和63年



だんだん田(紙本着色)
制作年不詳



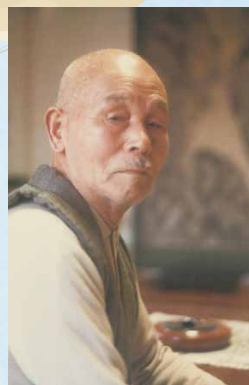
竹林(掛軸装)



観世音寺(紙本着色)昭和54年



山野(掛軸装)平成元年



■ 小野茂明 略年譜

明治30年	1897	6月25日 福岡県嘉穂郡頼田町勢田にて、祖父黒田藩士、父農業の長男として生れる
大正5年	1916	洋画南画等の指導を受ける
大正10年	1921	24歳上京 下村為山に師事し洋画漢学を習う
大正13年頃	1924	築上町下香楽の地藏院に住み絵を描く
大正14年頃	1925	小室翠雲の環堵画塾に入門 南画を習う
昭和3年頃	1928	筆谷等観らの指導を受ける
昭和4年	1929	32歳 東京杉並区天沼に家建てる 川崎小虎の新生社に入門
昭和19年	1944	47歳 福岡県宇美町に疎開 大谷炭鉱勤務
昭和24年	1949	宇美中学校にて美術を担当する 福岡県美術協会会員となる
昭和28年	1953	56歳 宇美中学校を辞し東京天沼自宅で画作
昭和38年	1963	66歳 東京を引き揚げ大宰府三条に居移す
昭和42年	1967	福岡県文化会館に回顧展を開催
昭和44年	1969	72歳 六曲十双の大作に取り組む
昭和51年	1976	79歳 六曲十双を完成 「八十賀小野茂明屏風展」開催
昭和52年	1977	福岡県美術協会副会長
昭和54年	1979	福岡県文化功労賞
平成6年	1994	6月10日没 96歳

『小野茂明 日本画展』平成13年太宰府文化ふれあい館図録年譜より



弟子とスケッチする茂明

城井谷ゆかりの日本画家 小野茂明

東京で洋画・南画・日本画の修行に明け暮れた小野茂明は、一時期体調を崩し静養のため、築上町下香楽の地藏院で生活した。

その間、赤幡八幡神社の神宮司をはじめ、地域の人々と交流を深め、米や野菜の差し入れを受けては絵の手ほどきをし、あかはたはちまんじんじや こうぐうじ 耶馬溪や豊前松江の浜へ、やばけい ふぜんしょうえ スケッチに出かける毎日だった。茂明にとって城井

谷を拠点とした豊前地域での生活は終生心の拠り所となったことであろう。戦後、太宰府に居住した後も度々、城井谷を訪れ、数多くの作品を残した。

(城井谷: 赤幡八幡神社から最奥部の寒田まで全長18kmの谷底平野)